

日本の絵本と外国の絵本における繰り返し構造と結末の分析

鯨 坂 はるよ*

An Analysis of Repetition Structure and Ending in Japanese Picture Book and Foreign Picture Book

Haruyo Ajisaka

【キーワード】日本の絵本, 外国の絵本, 繰り返し構造, 結末

Japanese picture book, foreign picture book, repetition structure, ending

1. 研究の背景と目的

絵本とは何か。正置(2016)は「絵本は、<言葉(文学)と絵(美術)と『めくっていくことから生まれる)物語』>から成り立っている総合芸術」と述べている。

絵本には子どもたちを引きつける魅力がある。絵本の魅力とは何であろうか。なぜ、子どもたちを引き付けるのだろうか。

筆者(2020)は、絵本の魅力を紐解くために、絵本における繰り返し構造と結末について検討した¹⁾。本稿では、更に外国の絵本²⁾も加え検討し、絵本の構造、結末は日本とその他の国で違いがあるのか、類似点が多いのか、引き続き絵本の繰り返し構造と結末について検討したい。

野家(2020)は物語について「出来事の連鎖はこのような『非連続性』と『連続性』との統合、すなわち『非連続の連続』の上に成り立っている。それゆえ、より以前の出来事はそれ以後の出来事の出現によって『流れ去る』わけではなく、いわば後者は前者の上に『積み重なって』いるのである。」と述べている。物語は、非連続の連続という構造だと述べている。

秋場(1982)は、絵本の構造分析を行っており、ストーリーの展開に伴い中心人物がどのように変化するかを類型化すると大きく3つ、一貫性型、順番型、複線型に分けられると述べている。一貫性型は、中心人物等が物語の導入から結末まで一貫して登場し、中心人物等にいろいろなものが加わっていく加算型(『てぶくろ』)、次々に色々なものに出会う出会い型(『とらっく とらっく とらっく』)、加算型と出会い型の混合型(『もりのなか』)があると指摘している。順番型は、中心人物が順番に出てくるタイプで、『びびきやぎのがらがらどん』『シナの五にんきょうだい』を例に挙げている。複線型は、時間的なずれにより、中心人物が変化するタイプで、先に行ってしまった主人公を後から追いかけていくような場合であり、『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』『ふしぎなたけのこ』を例に挙げている。

所属および連絡先

*大阪千代田短期大学

絵本を見て絵本の構造について気付くことは、同じ言葉や行動、内容を繰り返すものが多いという点である。繰り返し構造について、井倉・青木（1988）は『てぶくろ：ウクライナ民話』を例に挙げ、「不思議な手袋にすみつく動物は小さなものから大きなものへと＜系列＞的に並べられている。また、動物の数は、一びき二びき、三びき…と＜累積＞されていく。この世界の展開には、＜系列＞と＜累積＞が見られ、このような順序的な構造は、＜系列的累積＞構造と呼べるだろう。一方、＜できごと＞部においては、『だれだい？』と問い、『…だ』と答えては、次から次へと手袋に入り込む。このようなやりとりが繰り返され、そこに＜反復＞という構造が認められる。」と述べ、「このような構造をまとめて、＜系列的累積－反復＞構造と呼ぶことができる」と述べている。

また繰り返し構造について、岩田（2003）は、絵本構造を基本累型と混合類系とに分け、基本累型の中で系列型、累加型、反復型、円環回帰型、変身・変容型とに分けている。混合類型は、系列型、累加型、反復型、円環回帰型、変身・変容型が混合しているものである。その中で、『いないいないばあ』を反復型に位置付けている。

また絵本の展開について、秋場は二つに分類し、一つは「物を獲得するとか、悪物を退治するとか、事件解決に向かってストーリーが展開される事件解決型」であるとし、例として、『おおきなかぶ』『かにむかし』『十一びきのねこ』を挙げている。もう一つは「いろいろな事件が次々に起きることによって、ストーリーが展開する事件展開型」としている。その事件展開型の中に、二つのタイプの絵本があるとし、一つは「中心人物が移動するにつれて、時間や状況も変化するタイプの絵本」として、『ひとまねこざる』『とらっくとらっくとらっく』『おぼけのバーバーパパ』を挙げている。事件展開型のもう一つのタイプの絵本は、中心人物等は固定しているが、時間や状況が変化するタイプの絵本」と述べ、例として『ちいさいおうち』『ぴかंकんめをまわす』を挙げている。

本稿では、絵本の内容、ストーリーの繰り返し構造に焦点を絞り、分類、分析し、日本の絵本と外国の絵本を比較、検討する。また、繰り返し構造の後、どのような結末になっているのかも、パターンがある³⁾。その結末のパターンも子どもを引き付ける絵本の魅力の1つとなっていると思われるので、絵本の結末も分析し、日本の絵本と外国の絵本を比較、検討する。

2. 研究方法

絵本における繰り返し構造と結末を分析するために、代表的で、子どもが好きな絵本、よく読まれている絵本を抽出することが理想的である。本稿では、全国学校図書館協議会選定の「第28回 よい絵本」⁴⁾を基にし、対象年齢を乳児（0～3歳未満）としている日本の絵本⁵⁾4冊、幼児（3歳～就学前まで）としている日本の絵本53冊、合計57冊⁶⁾と「第28回 よい絵本」で外国の絵本に分類された絵本（対象年齢を幼児（3歳～就学前まで）としている外国の絵本20冊⁷⁾とを比較分析対象とした。日本の絵本とされる中に、『ガラスめだまときんのつものやぎ：ベラルーシ民話』や『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』が入っている。全国学校図書館協議会によると、「日本の絵本＝日本の創作絵本。原話は外国のものでも、再話、再創造して日本で絵本化されたもの」と定義している。また外国の絵本については、「外国の絵本＝外国で出版された絵本の翻訳で、絵も原書によるもの」と定義している。乳児

対象の外国の絵本の記載はない。

上記の日本の絵本の 57 冊から、しりとり絵本や繰り返しがない物語、言葉がない絵本等を省くと、繰り返し構造が見られた絵本は、対象年齢が乳児の絵本で 4 冊を含み、合計 31 冊⁸⁾である。

また、「第 28 回 よい絵本」の中で紹介されている外国の絵本 20 冊の中から、繰り返しがない物語、言葉がない絵本等を省くと、13 冊である。繰り返し構造が見られた外国の絵本は、『あらまっ!』『ガンピーさんのふなあそび』『きょうはみんなでクマがりだ』『三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話』『だめよ、デイビッド!』『ティッチ』『てぶくろ：ウクライナ民話』『どろんこぶた』『どろんこハリー』『はなをくんくん』『はらぺこあおむし』『まって』『もりのなか』である。

3. 結果と分析

(1) 繰り返し構造の類型

上記の絵本を井倉・青木、岩田、秋場の類型を参考に、反復型、系列的反復型、累加型、系列的累加型、中心物一貫性反復型、中心事物一貫性願望反復型に分類する。

外国の絵本の反復型はない。外国の絵本の系列的反復型は、『三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話』『ティッチ』である。『三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話』は、ちいさいやぎのがらがらどんが橋を渡り、次に二番目に大きいのがらがらどん、最後に一番大きなのがらがらどんが橋を渡る。

『ティッチ』は、3人兄弟の末っ子ティッチ、長女メアリ、長男ピートと、年齢の低い者から登場し、長男ピートの持っているとても大きな自転車、長女メアリが持っている大きな自転車、末っ子ティッチの持っている小さな三輪車が大きなものから小さなものの順に登場する。長男ピートの持っているたこは木の上まで上がり、長女メアリが持っているたこは家の上まで上がるが、末っ子ティッチの持っているものはかざぐるまで、手の中で回るだけである。たこの上がる高さが高いものから順に登場し、ティッチの持っているかざぐるまは飛びもしない。長男ピートは大きな太鼓、メアリはラッパ、末っ子ティッチが持っているものは木のふえと大きなものの順で登場する。長男ピートは大きなこぎり、メアリはかなづち、末っ子ティッチが持っているものはくぎで、大きなものから順に登場する。長男ピートは大きなシャベル、メアリはうえきばち、末っ子ティッチが持っているものは小さなたねと大きな順に登場する。

外国の絵本の累加型は、『あらまっ!』『ガンピーさんのふなあそび』『きょうはみんなでクマがりだ』『はなをくんくん』『はらぺこあおむし』『もりのなか』がある。

『あらまっ!』は、おばあちゃんが孫パトリックに「そろそろ おひさまが しずむから、はやくベッドに はいって、さっさと ねなさい」と言うのだが、パトリックに「ベッドなんて どこにもないよ」と言われ、おばあちゃんは「あらまっ!!!?」と言って、庭の木を切り倒し、ベッドを作る。また、「さあ、ベッドに はいって、まくらを あてて、さっさと ねなさい」と言うのだが、パトリックに「まくらなんて どこにも ないよ」とまた言われ、「あらまっ!!!??」と言って、とりごやのにわとりたちのはねをむしり、まくらを作る。その後、パトリックに言われ、もうふ、くまのぬいぐる

みを作る。

『ガンピーさんのふなあそび』は、ガンピーさんのふねに、こどもたち、うさぎ、ねこ、いぬ、ぶた、ひつじ、にわとり、こうし、やぎが順に乗せてほしいとお願いし、船に乗っていく。

『きょうはみんなでクマがりだ』は、「きょうは みんなで クマがりだ。つかまえるのは がかいやつ。そらは すっかり はれてるし こわくなんか あるもんか！」と言いながら、くさはら、かわ、ぬかるみ、もり、ふぶき、ほらあなをに行く。ほらあなにはクマがおり、今度は反対にほらあな、ふぶき、もり、ぬかるみ、かわ、くさはらを通り抜け、家に逃げ帰る。家に逃げ帰る際、2 ページの間にほらあな、ふぶき、もり、ぬかるみ、かわ、くさはらを通り抜け、場所の積み重なりを楽しんでいるので、累加型とする。

『はなをくんくん』は、眠っているのねずみ、くま、かたつむり、りす、やまねずみが順に登場し、同じ順番で目を覚まし、皆で匂いのする方向へかけていく。

『はらぺこあおむし』は、はらぺこあおむしが月曜日りんごを1つ食べ、火曜日なしを2つ食べ、水曜日すももを3つ食べるというように食べる果物の数が増えていく。

『もりのなか』は、ぼくが紙の帽子をかぶり新しいらっぱを持って森へ散歩に出かける。すると、らいおん、二ひきのぞう、二ひきのくま、おとうさんかんがるーとぼけっとにあかんぼうを入れたおかあさんかんがるー、こうのとりの、二ひきのさる、うさぎが散歩についてくる。

外国の絵本の系列的累加型は『てぶくろ：ウクライナ民話』であり、ねずみ、かえる、うさぎ、きつね、おおかみ、いのしし、くまとてぶくろに入るものは大きくなり、てぶくろはぎゅうぎゅうづめになる。

外国の絵本の中心物一貫性反復型は、常に同じ中心物が登場し、その中心物が変化していく。『だめよ、デイビッド!』『どろんこぶた』『どろんこハリー』『まって』があてはまる。

『だめよ、デイビッド!』は、お母さんが「だめ」と言うこと、泥だらけのまま部屋に入る、お風呂の浴槽の水を流したまま浴槽で活発に遊ぶ、裸で家を飛び出す、鍋をかぶりフライパンをたたき、食べ物で遊ぶ、一度に食べ物を沢山口に入れる、ヒーローごっこをする、ベッドを飛び跳ねる、鼻をほじくる、家の中で野球をし花瓶を割る等を次々に行う。

『どろんこぶた』は、庭のやわらかいどろんこの中に座ったまま沈んでゆくことが大好きだったが、庭のやわらかいどろんこがなくなり、怒ったこぶたはやわらかいどろんこを探しに行き、沼を見つけ泥の中に沈む。しかし、沼に住むものたちに追い出され、街にたどり着き、どろんこに見えたセメントを見つけ、どろ（セメント）の中に沈む。

『どろんこハリー』は、お風呂に入るのが嫌なハリーはお風呂に入れられそうになり、家を飛び出す。飛び出したハリーは道路工事をしているところで遊び、どろだらけになる。その後、線路の橋の上で遊び、すすだらけになり、他の犬たちと鬼ごっこをして更に汚れ、石炭トラックの石炭が滑り落ちる滑り台を滑り降り、増々汚れる。

『まって』は、お母さんが男の子の手を引き急いでいる。男の子は犬を見つけ、「まって」と言う。次は、工事現場の人に手を振り、「まって」と言い、次は池の鳥に餌をやろうとして「まって」と言い、次はアイスクリーム屋さんを見つけ「まって」と言うが、お母さんに「まてないの!」と言われる。お

店の水槽にいる魚を見て「まって」と言い、道の花壇にとまっている蝶を見て「まって」と言い、降ってきた雨を食べている男の子の手を母がひっぱり、電車に乗ろうとするが、男の子がまた「まって」と言う。中心物一貫性反復型と言える。

外国の絵本では、中心事物一貫性願望反復型に該当する絵本はなかった。

(2) 結末の種類

絵本の結末のパターンはどのようなものがあるだろうか。

秋場の分類を参考に事件解決型を細分化し、結末をより細かく分類する。

外国の絵本の中で勸善懲悪型は『三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話』がある。『三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話』は、ちいさいやぎのがらがらどんが橋を渡り、次に二番目に大きいのがらがらどん、最後に一番大きなのがらがらどんが、トロールを退治し、橋を渡る。これは、昔話、民話が、悪いことをしたら、それが自分に返ってくることを教訓的に子どもに教えているものが多いからだと考えられ、秋場の分類の事件解決型を細分化し、勸善懲悪型とする。

他には、結末に問題が解決する問題解決型がある。外国の絵本で結末に問題が解決する問題解決型は、『ティッチ』『どろんこハリー』『はなをくんくん』『まって』『あらまっ!』『どろんこぶた』である。

『ティッチ』は、3人兄弟の末っ子ティッチ、長女メアリ、長男ピートが登場し、長男ピートの持っているものは全てとても大きく、長女メアリが持っているものは長男ピートの持っているものの次に大きく、末っ子ティッチのものは全て小さい。長男ピートは大きなシャベル、メアリはうえきばち、末っ子ティッチは小さい種を持っていることが描かれ、最後に小さなたねは大きく育つ。末っ子ティッチが持つものは上の兄弟が持つものより全て小さく、末っ子ティッチはコンプレックスをもっているが、最後、末っ子ティッチが持っている小さなたねは大きく育ち、コンプレックスは解消されるので、問題解決型である。

『どろんこハリー』は、お風呂に入るのが嫌なハリーはお風呂に入れられそうになり、家を飛び出す。飛び出したハリーは道路工事をしているところで遊び、どろだらけになる。その後、線路の橋の上で遊び、すすだらけになり、他の犬たちと鬼ごっこをして更に汚れ、石炭トラックの石炭が滑り落ちる滑り台を滑り降り、増々汚れる。遊び疲れたハリーは家に帰るが、汚れ過ぎて、ハリーと認めてもらえず、家に入れてもらえない。そこでハリーは、嫌いだったお風呂に入り、ハリー本人と認めてもらう。問題解決型と言える。

『はなをくんくん』は、眠っているのねずみ、くま、かたつむり、りす、やまねずみが順に登場し、同じ順番で目を覚ます。目をさました皆は急いで行き、最後に雪の中に黄色い花が咲いているのを見つけ、春が来たことを知る。皆、はなをくんくんしながら急いでどこに行くのかと思うと、黄色い花が咲いているところに行くことがわかり、問題解決型と言える。

『まって』は、お母さんが男の子の手を引き急いでいる。男の子は犬を見つけ、「まって」と言う。次は、工事現場の人に手を振り、「まって」と言い、次は池の鳥に餌をやろうとして「まって」と言い、次はアイスクリーム屋さんを見つけ「まって」と言うが、お母さんに「まてないの!」と言われるが、お店の水槽にいる魚を見て「まって」と言い、道の花壇にとまっている蝶を見て「まって」と言い、降っ

てきた雨を食べている男の子の手を母がひっぱり、電車に乗ろうとするが、男の子がまた「まって」と言うので、お母さんが振り返ると虹がでており、「まつのも いいわね」とお母さんが言う。「まって」と言ってもなかなか待ってくれなかった問題が最後に解決するので、問題解決型とする。

『あらまっ!』は、おばあちゃんが孫パトリックに「そろそろ おひさまが しずむから、はやくベッドに はいって、さっさと ねなさい」と言うのだが、パトリックに「ベッドなんて どこにもないよ」と言われ、おばあちゃんは「あらまっ!!!?」と言って、庭の木を切り倒し、ベッドを作る。また、「さあ、ベッドに はいって、まくらを あてて、さっさと ねなさい」と言うのだが、パトリックに「まくらなんて どこにも ないよ」とまた言われ、「あらまっ!!!??」と言って、とりごやのにわとりたちのはねをむしり、まくらを作る。その後、パトリックに言われ、もうふ、くまのぬいぐるみを作り、最後に孫が寝るのに必要な全ての物をおばあちゃんは作り、孫を寝かそうとするが、「もうあさだよ」と孫に言われてしい、「あらまっ!」と叫ぶ。『あらまっ!』は、孫が寝るのに必要な全ての物をおばあちゃんは作り、問題解決を試みているので、問題解決型とする。

『どろんこぶた』は、庭のやわらかいどろんこの中に座ったまま沈んでゆくことが大好きだったが、おばさんが庭のどろんこを掃除し、なくしてしまう。やわらかいどろんこがなくなり、怒ったぶたはやわらかいどろんこを探しに行き、沼を見つけ泥の中に沈むが、沼に住むものたちに追い出され、街にたどり着く。街でどろんこに見えたセメントを見つけ、どろ（セメント）の中に沈むと、体が抜けなくなる。心配したおじさん、おばさんが駆けつけ助けられる。問題解決型であるが、おばさんとも仲直りするので、仲良し型とも言える。

登場人物が最後に仲良しになる仲良し型も見られる。外国の絵本で仲良し型は『ガンピーさんのふなあそび』『もりのなか』で、ガンピーさんのふねに、こどもたち、うさぎ、ねこ、いぬ、ぶた、ひつじ、にわとり、こうし、やぎが順に乗せてほしいとお願いし、船に乗っていく。しかし、皆がガンピーさんとの約束を破り、ふねはひっくりかえる。皆で歩いて帰り、皆で仲良くおやつを食べて、「また いつか のりにおいでよ」とガンピーさんが言い、皆は帰る。

『もりのなか』は、ぼくが紙の帽子をかぶり新しいらっぱを持って森へ散歩に出かける。すると、らいおん、二ひきのぞう、二ひきのくま、おとうさんかんがるーとぼけっとにあかんぼうを入れたおかあさんかんがるー、こうのとりの、二ひきのさる、うさぎが散歩についてくる。皆でおやつを食べ、はんかちおとし、ろんどんばしおちた、かくれんぼもして仲良くなるので、仲良し型とも言える。

母親のところに最後戻ってきて終わる絵本は日本の絵本に多く、母親回帰型と言えるであろう⁹⁾。外国の絵本では『だめよ、デイビッド!』が、母親回帰型と言える。デイビッドは、母にだめと言われる行為を次々に行い、母に叱られてばかりだが、最後泣いているデイビッドに母は「デイビイ、こっちにおいで」と言い、「よしよし、デイビッド…だいすきよ!」と言い、デイビッドを抱きしめる。

日本の絵本の母親回帰型は6冊¹⁰⁾であるのに対して、外国の絵本は『だめよ、デイビッド!』の1冊だけである。

結末で、夢、空想から覚めて終わる、覚醒型の結末もある。外国の絵本では『きょうはみんなでクマがりだ』『もりのなか』『てぶくろ：ウクライナ民話』が結末で、夢、空想から覚めて終わる、覚醒型である。

『きょうはみんなでクマがりだ』は、くさはら、かわ、ぬかるみ、もり、ふぶき、ほらあなを通り抜ける。ほらあなにクマがおり、今度は反対にほらあな、ふぶき、もり、ぬかるみ、かわ、くさはらを通り抜け、家に逃げ帰り、皆で仲良く布団に潜り込み、夢か空想であることを連想させる。皆で仲良く布団に潜り込むところから、仲良し型でもあり、覚醒型でもあるので、混合型（仲良し型+覚醒型）と言える。

『もりのなか』は、ぼくが紙の帽子をかぶり新しいらっぱを持って森へ散歩に出かける。すると、らいおん、二ひきのぞう、二ひきのくま、おとうさんかんがるーとぼけっとにあかんぼうを入れたおかあさんかんがるー、こうのとりの、二ひきのさる、うさぎが散歩についてくるが、皆でかくれんぼをして、ぼくがおにになり、「もういいかい!」と言って目を開けると、ぼくを探していたお父さんがいる。「いたい だれと はなしてたんだい?」とお父さんが聞くと、「どうぶつたちとだよ。みんな、かくれてるの」とぼくが答える。そのように言うぼくにお父さんは、「だけど、もう おそいよ。うちへ かせらなくっちゃ」「きっと、またこんどまで まっててくれるよ」と言う。ぼくは、「さようならあ。みんな まっててね。また こんど、さんぽに きたとき、さがすからね!」と言って、お父さんに肩車をしてもらって帰る。お父さんが来ると動物たちはいないので、ぼくが妄想していたことを示し、覚醒型と言える。皆でおやつを食べ、はんかちおとし、ろんどんぼしおちた、かくれんぼもして仲良くなるので、仲良し型とも言えるので、混合型（仲良し型+覚醒型）と言える。

『てぶくろ：ウクライナ民話』も、ねずみ、かえる、うさぎ、きつね、おおかみ、いのしし、くまとてぶくろに仲良く入る。しかし、おじいさんがてぶくろが片方ないのに気づき、てぶくろを見つける。「てぶくろは むくむく うごいています。こいぬは 『わん、わん、わん』と ほえたてました。みんなは びっくりして てぶくろから はいだと、もりのあちこちへ にげていきました。」と書いてあるが、てぶくろから出てくる様子は絵にはなく、絵はてぶくろだけ、ぽつんと描かれており、夢か空想だったことが連想されるので、覚醒型である。しかし、皆で仲良くてぶくろに入る様子もあるので、仲良し型とも言えるので、混合型（仲良し型+覚醒型）と言える。瀧（2018）は『てぶくろ：ウクライナ民話』について、「はじめのページの手袋と、動物が出て行ったあとの手袋の絵をよく見比べてみると、手袋の位置も、まわりの小枝への雪の積もり具合もまったく同じです。つまり、時間が経過していないのです。これは、現実の時間の流れとは別に、手袋を落とすことでその扉が開かれた、動物たちによって繰り広げられるファンタジーの物語なのです。」と述べている。『てぶくろ：ウクライナ民話』は空想であり、覚醒型と言える。

秋場が述べた「いろいろな事件が次々に起きることによって、ストーリーが展開する事件展開型」も、外国の絵本『はらぺこあおむし』に見受けられた。『はらぺこあおむし』は、はらぺこあおむしが月曜日りんごを1つ食べ、火曜日なしを2つ食べ、水曜日すももを3つ食べるというように食べる果物の数が増えていく。そして、さなぎになり、蝶へと成長していく。

（3）繰り返しの構造と結末の関係性

繰り返しの構造と結末のパターンについては、関係性があるのだろうか。以下の表で、整理を行う。

表1 日本の絵本の繰り返し構造の類型と分類冊数

| 繰り返し構造の類型 | 絵 本 名 | 冊数 |
|--------------|---|----|
| 反復型 | 『いないいないばあ』『おふろで ちゃぶ ちゃぶ』『しろくまのパンツ』『三びきのこぶた：イギリス昔話』『ふってきました』『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』 | 6 |
| 系列的反復型 | 『ねずみくんのチョコッキ』『ガラスめだまときんのつなのヤギ：ベラルーシ民話』 | 2 |
| 累加型 | 『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』『わんわん わんわん：くすくすえほん』 | 2 |
| 系列的累加型 | 『おおきなかぶ』 | 1 |
| 中心物一貫性反復型 | 『とりかえっこ』『どんどこももんちゃん』『オー・スッパ』『かえるのあまがさ』『がたたん たん』『キャベツくん』『くまくん』『くろねこかあさん』『ケンケンとびのけんちゃん』『ゴムあたまポンたろう』『しゅくだい』『すやすやタヌキがねていたら』『だるまちゃんとしてんぐちゃん』『ともだち できたよ』『はぶじゃぶじゃん』『はやくねてよ』『ぼくのくれよん』 | 17 |
| 中心事物一貫性願望反復型 | 『でんしゃえほん』『ぼくのトイレ』『わたしのワンピース』 | 3 |
| 合 計 | | 31 |

以上の表から分かるように、抽出した日本の絵本では、繰り返し構造は中心物一貫性反復型が多い。中心物一貫性反復型は、常に同じ中心物が登場し、その中心物に変化していく。同じ中心物が登場し、何かを行う方が、理解しやすく、感情移入もしやすい。

表2 外国の絵本の繰り返し構造の類型と分類冊数

| 繰り返し構造の類型 | 絵 本 名 | 冊数 |
|--------------|--|----|
| 反復型 | なし | 0 |
| 系列的反復型 | 『三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話』『ティッチ』 | 2 |
| 累加型 | 『あらまっ!』『ガンピーさんのふなあそび』『きょうはみんなでクマがりだ』『はなをくんくん』『はらべこあおむし』『もりのなか』 | 6 |
| 系列的累加型 | 『てぶくろ：ウクライナ民話』 | 1 |
| 中心物一貫性反復型 | 『だめよ、デイビッド!』『どろんここぶた』『どろんこハリー』『まって』 | 4 |
| 中心事物一貫性願望反復型 | なし | 0 |
| 合 計 | | 13 |

日本の絵本では中心物一貫性反復型が多かったのに比べて、外国の絵本は中心物一貫性反復型もあるものの、累加型が一番多く、単純な反復型がなかった。単に反復するのではなく、累加する面白さがあるからではないか。また、今回抽出した外国の絵本に単純な反復型がなかったのは、日本の絵本には乳児対象の絵本があったのに対して、今回抽出した外国の絵本の中には乳児対象の本はなかったということも理由と思われる。

結末の類型も整理を行う。

表3 日本の絵本の結末の種類と冊数

| 結末の種類 | 絵 本 名 | 冊数 |
|-----------------------|--|----|
| 勸善懲悪型 | 『三びきのこぶた：イギリス昔話』『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』『ガラスめだまときんのつこのヤギ：ベラルーシ民話』 | 3 |
| 問題解決型 | 『はぶじゃぶじゃん』『はやくねてよ』『しろくまのパンツ』『おおきなかぶ』『ともだち できたよ』 | 5 |
| 仲良し型 | 『がたたん たん』『おふろで ちゃぶ ちゃぶ』『ねずみくんのチョコッキ』『わんわん わんわん：くすくすえほん』『すやすやタヌキがねていたら』『だるまちゃん とてんぐちゃん』 | 6 |
| 母親回帰型 | 『どんどこももんちゃん』『とりかえっこ』『くろねこ かあさん』『ケンケンとびのけんちゃん』 | 4 |
| 混合型（問題解決型＋母親回帰型） | 『ふってきました』 | 1 |
| 混合型（問題解決型＋仲良し型＋母親回帰型） | 『しゅくだい』 | 1 |
| 覚醒型 | 『ぼくのトイレ』『わたしのワンピース』 | 2 |
| その他 | 『いないいないばあ』『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』『オー・スッパ』『かえるのあまがさ』『キャベツくん』『くまくん』『ゴムあたまボンたろう』『でんしゃえほん』『ぼくのくれよん』 | 9 |
| 合 計 | | 31 |

結末を類型化できなかった絵本もあるが、日本の絵本では、問題解決型、仲良し型、母親回帰型、勸善懲悪型が多いことが分かる。

外国の絵本の結末の種類と冊数は以下の通りである。

表4 外国の絵本の結末の種類と冊数

| 結末の種類 | 絵 本 名 | 冊数 |
|-----------------------|---|----|
| 勸善懲悪型 | 『三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話』 | 1 |
| 問題解決型 | 『ティッチ』『どろんこハリー』『はなをくんくん』『まって』『あらまっ!』『どろんここぶた』 | 6 |
| 仲良し型 | 『ガンピーさんのふなあそび』 | 1 |
| 母親回帰型 | 『だめよ、デイビッド!』 | 1 |
| 混合型（問題解決型＋母親回帰型） | なし | 0 |
| 混合型（問題解決型＋仲良し型＋母親回帰型） | なし | 0 |
| 覚醒型 | なし | 0 |
| 混合型（仲良し型＋覚醒型） | 『きょうはみんなでクマがりだ』『もりのなか』『てぶくろ：ウクライナ民話』 | 3 |
| 事件展開型 | 『はらぺこあおむし』 | 1 |
| その他 | なし | 0 |
| 合 計 | | 13 |

日本の絵本では問題解決型（混合型の『ふってきました』『しゅくだい』も含む）が7冊、仲良し型（混合型の『しゅくだい』も含む）は7冊であった。外国の絵本では、仲良し型（『きょうはみんなでクマがりだ』『もりのなか』『てぶくろ：ウクライナ民話』を含む）は4冊、問題解決型6冊であり、日本の絵本も外国の絵本も結末が仲良し型と問題解決型が多いということが分かった。日本は協調性が重視されるので日本の絵本の結末は外国の絵本より仲良し型の結末が多く、日本以外の国の絵本では協調性よりも問題解決が重視され、外国の絵本の結末は仲良し型が少なく、問題解決型が多くなるのではないかと予想していたが、日本の絵本も外国の絵本もあまり差はなかった。しかし分析対象とした絵本は僅かなので、今後研究を深めたい。

母親回帰型においては、日本の絵本では6冊（混合型の『ふってきました』『しゅくだい』を含む）であるのに対し、外国の絵本では『だめよ、デイビッド!』の1冊だけであった。これは、日本で絵本を買い与えたり、読み聞かせをするのは、母親が多いということも影響しているのではないか。しかし、これについても分析対象とした絵本は僅かなので、今後研究を深めたい。

4. 考 察

対象にした日本の絵本57冊中、繰り返し構造が見られた日本の絵本が31冊、外国の絵本20冊中、繰り返し構造が見られた外国の絵本は13冊であった。絵本は日本の絵本、外国の絵本でも共通して繰り返す構造が多いことが分かり、繰り返す構造が乳児・幼児を対象とした絵本の魅力の一つとなっている。

繰り返し構造が見られた乳児を対象とした日本の絵本は4冊中4冊で、4冊という少ない数ではあるが、0～3歳未満の乳児という言葉がまだあまり発達していない子どもにとって、繰り返し構造や言葉を繰り返すことは、魅力的なものである。

絵本の繰り返す構造について、井倉・青木は、「人は『知っているもの』に出会った時、それが音楽であれ、絵であれ、詩であれ、心ひかれるものである。そして安心し、満足する。幼児にとって、『知っているもの』との出会いはそう多くはない。経験が少ないうえに、記憶力がまだ未発達だからである。ところが、反復の場合、長期の記憶力に頼る必要はない。『知っているもの』との最もシンプルな出会いが反復と言えよう。二回目の繰り返しで、子どもは『知っているもの』に出会う。『あっ、さっきと同じだ』と気づく。この<同一性>の認知が、ひょっとして、『つぎも…』という<予想>を生む。三回目で、予想が<的中>すると、子どもたちは、大いに喜びもし、満足もする。だから、反復は、少なくとも三回なくてはならない。反復によって不思議な世界に誘われるだけでなく、ものごとを関係づけ、予測する知的な刺激も受けることになる。<予想→期待→的中→満足>という読みのダイナミズムを体験する。」と述べている。乳児は幼児より経験が少ないうえに記憶力が未発達なので、繰り返すことは理解のしやすさに結びつく。また、予想し、期待し、的中することで満足を得る。

ワロン（1983）が「予期せざる驚きは遊びの対象にはなりません。期待していたとおりの出来事が生じてはじめて快感が生まれる」と述べているように、人は期待した予測できる繰り返し構造によって、快感が生じているのである。これは、いないいないばあの遊びにも見られるもので、手の後ろに予測で

きる母親等がいると考え、その期待と同じ結果となることで喜びを得るのと同じであり、絵本においても繰り返し構造によって快感が生じる。

井倉・青木は、「幼い子どもたちには、人物の性格を示すのに、どんな形容詞をいくつつけても実感がわきにくい。ことばとイメージとのつながりが弱いからである。そういった意味で、人物の行動・会話などの反復は人物の性格をきわだたせ、物語のテーマを支えうると言えるだろう。」と述べている。繰り返すことで、子どもに人物の性格や物語のテーマを理解しやすくさせ、人物の性格、物語のテーマを強めている。

瀧 (2018) は、『きんぎょがにげた』について、「一度読んでもらおうと、記憶力のよい子どもたちのことですから、もちろん、きんぎょがどこに隠れているか憶えてしまいます。子どもたちは、予測をたて、自分の思ったところにちゃんというきんぎょを見つけて安心し、自信をとりもどすのです。」と述べている。子どもたちは予測をたて、自分の思ったところにきんぎょを見つけ安心し、自信を取り戻し、満足する。

また瀧は「この年齢 (3歳児) の子どもたちは、まだまだ不安なこともいっぱいある子どもたちです。『きんぎょがにげた』でご紹介したように、子どもたちにとって、知っていることは安心、知らないことは不安です。もしもページをめくるたびに、前のページとまったく違う世界が展開されていたら、子どもたちは余裕をもって物語を楽しむことができません。ですから、おおまかな流れはおなじだけれど、ちょっとずつ変わりながら展開していくお話が3歳頃の子どもの発達に適しているといえるでしょう。」2歳までは繰り返す構造の絵本が理解しやすく、安心、満足感を与えるが、3歳頃になると、それでは物足りなくなり、少しずつ変わるものに喜びを得る。それ故、3歳以上対象の本は、単なる反復型は少なくなる。

繰り返す構造であっても、全く同一の繰り返しではない。外国の絵本は累加型が多い。井倉・青木は、「子どもたちは、同じものの繰り返しの中で、『違い』に気づく。それがだんだん大きく、だんだん多くなっていくことに気づく子どももいれば、気づかない子どももいるだろう。その時気づかなくても、繰り返し『てぶくろ』を読んでもらっているうちに気づいていく。—このようにして、反復構造の中の〈同一性〉と〈差異性〉ということをテコにして、話のしくみを捉えていくのである。」繰り返す中で、少し違うものに注意を向けさせ、展開を際立たせ、話の内容を捉えさせやすくしている。また、その差異性を子どもたちは楽しむ。

「ロジャー・フライは『最後の講義録』の中で、美術作品を評価する方法として、ひとつかふたつの特徴に的をしぼって、いくつかの作品を比較し、それらの特徴が個々の作品にそなわっているかどうか、検討するようにすすめています。フライは感性 (センシビリティ) と活力 (バイタリティ) の二つをあげていますが、これらの特徴が、どのように絵本の中に表現されているか検討してみることは、私たちにとっても、そこから学ぶことがたくさんあると思われます。感性という言葉には二つの基本的な欲求、すなわち、秩序、調和を求める気持ちと、変化、偶然、意外性を求める気持ちとが含まれています。」とブラウン (1995) は述べている。人は繰り返す秩序を求める気持ちと、変化、意外性を求める気持ちを持っているので、そのような要素をもつ絵本に魅力を感じる。

また、ワロンは「力を集中する能力がゆるんだときには、笑ったりふざけたりしたい気分が生じやす

くなります」と述べている。絵本の展開を予想し、予想したように繰り返され、その予想が最後に予想と違うこととなる時、予想の緊張がゆるみ、笑いとなる。

＜予想→期待→的中→満足＞を繰り返し、結末は、予想通りで＜予想→期待→的中→満足＞となる場合や、予想をしていなかったもので終わる場合もあるが、ハッピーエンドで終わるものが多い。＜予想→期待→的中→満足＞を繰り返し、＜予想→期待→予想外＞というように予想もしていなかったもので終わるものもある。子どもであれ、大人であれ、このような繰り返し構造にひきつけられ、予想が的中することに満足し、予想外の結末でも楽しい気持ちとなるのである。

机（2018）は、「昔話絵本のなかによくみられる『繰り返し』は子どもたちの大好きなものである。例えば、『おおきなかぶ』の繰り返しとそのなかに仕組まれたユーモア、そして満足のいく結末。『三びきのやぎのがらがらどん』の力強い繰り返しの問答と、思いもかけぬやぎの逆転勝利。でぶくろのなかに動物が7匹も入る『てぶくろ』の不思議さと繰り返し。こうした昔話に代表される、一見、退屈でわずらわしく思われる繰り返しが、子どもにはとても魅力的である。予測できる楽しさ、そして、時にその予測がくつがえされる楽しさがあるからである。」と述べている。予測できる繰り返しと最後にくつがえされる楽しさが、子どもたちにとって魅力的なのである。

日本の絵本でも外国の絵本でも結末は、問題解決型が多かった。その点について、井倉・青木は、「私たちは、日常の論理では乗り越えられない、数多くの生きる課題をかかえている。“越えたい”と思いつつも簡単に越えることのできない現実。これは、大人だけの問題ではなく、子どもにとっても同じである。それぞれに、この現実を何とかして乗り越えようと健気に努力を重ねる。しかし、往々にして、まわりの人々はうまく対処できているように見え、自分だけが不器用な人間に思えて孤独に陥ってしまう。そんな時、私たちを支えてくれるものがあるとしたら、それはいったいどんなものなのだろう。もし、ブラック・ボックスを使って異質空間に連れて行かれ、そこで自分のかかえていた課題が一気に解決されたとしたら、どうだろうか。現実の世界では体験できないことを、異質空間で体験することによって、胸がすかっとする。と同時に、もしかしたら自分にも解決の道が開けるのではないかという、かすかな期待が生まれるはずである。“現実を超えたいという願い”を支えるもの、それは“ファンタジー”なのではなかろうか。」と述べている。現実では超えたくても簡単に越えることができない課題がある。しかし、その課題が一気に解決される絵本を読み、すかっとし、自分にも解決の道が開けるのではないかという期待が絵本を読むことによって生まれる。それが、絵本の魅力の一つとなっている。

結末で仲良し型も多いのは、友達がほしい子どもの心に安心感を与えるからである。対象年齢が乳児の絵本4冊（『いないいないばあ』『おふろでちゃぶちゃぶ』『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』『どんどこもんちゃん』）の中で、仲良し型は見当たらない。瀧も述べているように、3歳は社会性が発達する時期である¹¹⁾。本郷（2017）によると、3～4歳で親と過ごす時間が徐々に減少し、かわりに仲間と過ごす時間が徐々に増加し、7～8歳でピークとなる。1～2歳に比べて、友達を強く意識し始め、友達と過ごす時間が増えるのが3歳頃からである。友達を意識し始め、友達と仲良くなりたいという願望と重なるので、3歳児向けとされる絵本から、仲良し型が多く見られると考えられる。結末の仲良し型の絵本を読んでもらうことにより、自分も友達と仲良くなることができるという希望をもち、自分にも仲の良い友達ができるかもしれないという期待をもつ。また、親による友達と仲良くして欲しいとい

う願いもある。

また、日本の絵本の結末に母親回帰型が多いのは、日本の場合一般的に、子どもと接する時間が多いのは父親ではなく母親で、絵本に登場するのは、自然と普段子どもと接する機会の多い母親となる。また、絵本は大人が選ぶことが多く、大人が買う若しくは借りることが多い。その大人は父親ではなく母親であることが多いため、母親が登場する絵本が多くなるのではないだろうか。これに対して、外国の絵本では、『だめよ、デイビッド!』1冊だけが母親回帰型であった。これは、日本の育児が母親に偏っていることも要因の一つと考えられる。伊藤（2018）によると、「2008（平成20）年の『平成18年社会生活基本調査』に掲載されている夫と妻の主な行動の種類別生活時間を見ると、夫の場合1日の生活時間のうち最も多くの時間を占めているのが仕事であり、8時間45分となっています。妻も仕事占める時間が4時間22分と最も長いですが、家事・育児の時間を見ると、夫は1時間13分、妻は5時間53分」と伊藤（2018）は述べている。日本では、家事・育児の大部分を担う者は妻・母で、その影響が絵本にも表れている。

日本の絵本も外国の絵本も問題解決型は、中心物一貫性反復型が多い。これは、主人公が全ての場面に出てきた方が、子どもにとって理解しやすく、感情移入しやすいためであろう。

5. まとめ

日本の絵本も外国の絵本も繰り返す構造が多く、繰り返す構造が乳児、幼児を対象とした絵本の魅力の一つとなっている。特に、乳児対象の絵本には、繰り返す構造の絵本が多く、0～3歳未満の言葉がまだあまり発達していない子どもにとって、繰り返し構造や言葉を繰り返すことは、絵本の魅力の一つとなっている。人は、知っているものに出会った時、心ひかれ、安心し、自信を取り戻し、満足する。長期記憶が未発達な乳幼児にとって、知らないものが出てくることは不安でもある。知っているものが少ない乳幼児は記憶力もまだ未発達で、繰り返されることで、長期記憶に頼らずとも、知っているものに出会うことができる。

また、繰り返すことで、次もまた繰り返すのではないかという予想と期待を生む。そして期待が的中し、満足する。人は期待した予測できる繰り返し構造によって、快感が生じる。これは、いないいないばあの遊びにも見られ、手の後ろに予測できる母親等がいると考え、その期待と同じ結果となることで喜びを得るのと同じであり、絵本においても繰り返し構造により、予測、期待を生み、期待と同じ結果となり、快感が生じる。

言葉とイメージの繋がりが弱い幼い子どもたちにとって、どんな形容詞をつけても実感がわきにくい。繰り返すことによって、登場人物の性格や物語のテーマを理解しやすくし、登場人物の性格、物語のテーマを強調しているという点もある。

しかし、3歳以上になると、単なる繰り返し、予想的中だけでは満足できなくなる。繰り返し構造の中の同一性と差異性を楽しむようになる。人は繰り返す秩序、調和を求める気持ちと変化、偶然、意外性を求める気持ちと両方をもつので、そのような要素をもつ絵本に惹き付けられる。絵本の結末を予想し、緊張し、結末を見守っていると、予想と違う結末であることに、緊張が緩み、楽しい気持ちとな

る。

日本の絵本でも外国の絵本でも、結末は問題解決型が多かった。それは、大人にも子どもにも越えたいと思いつつも簡単に越えることのできない現実があり、それに対して絵本という異質空間で一気に問題が解決されると、胸がすかっとなると同時に、もしかしたら自分にも解決の道が開けるのではないかという、かすかな期待が生まれる。それが、絵本の魅力の一つとなっている。

結末に仲良し型も多いのは、3歳～4歳から社会性が発展し、友達を意識し、友達と過ごす時間が増える。結末の仲良し型の絵本を読んでもらうことにより、自分にも仲の良い友達ができるかもしれないという期待をもつ。また、親による友達と仲良くして欲しいという願いもある。

日本の絵本の結末に母親回帰型が多いのは、日本の場合一般的に、子どもと接する時間が多いのは父親ではなく母親で、絵本に登場するのは、自然と普段子どもと接する機会の多い母親となる。また、絵本は大人が選ぶことが多く、大人が買う若しくは借りることが多い。その大人は父親ではなく母親であることが多いため、母親が登場する絵本が多くなる。これに対して外国の絵本では、1冊だけが母親回帰型であった。これは、日本の育児が母親に偏っていることも表している。

日本の絵本も外国の絵本も問題解決型は、中心物一貫性反復型が多い。これは、主人公が全ての場面に出てきた方が、子どもにとって理解しやすく、感情移入しやすいためである。

本稿では、絵本の繰り返し構造と結末の分析を試みた。しかしながら、結末の全てを類型化できず、絵本は膨大な数があり、引き続き検討が必要である。

<注>

- 1) 鯉坂はるよ (2020) 「絵本における繰り返し構造と結末の分析」『大阪千代田短期大学』第 49 号
- 2) 外国の絵本は、原文で比較していないが、絵本の構造について比較なので、原文で比較する必要はないと考えている。
- 3) 日本の絵本の繰り返し構造と結末の分析の詳細については、鯉坂はるよ (2020) 「絵本における繰り返し構造と結末の分析」『大阪千代田短期大学紀要 49 号』参照
- 4) この全国学校図書館協議会選定の「第 28 回 よい絵本」は、2016 年に選定され、絵本読書の普及を図ることを目的とし、学校図書館関係者、教育関係者だけでなくより広く一般社会に提供するため、全国学校図書館協議会ホームページにて公開されている。
- 5) 日本の絵本とは、日本の創作絵本のことであり、原話は外国のものでも、再話、再創造して日本で絵本化されているものも含まれている。
- 6) 分析対象にした日本の絵本についての詳細は、鯉坂はるよ (2020) 「絵本における繰り返し構造と結末の分析」『大阪千代田短期大学』第 49 号参照。
- 7) 分析対象にした絵本は以下の通り。

全国学校図書館協議会選定 「第28回 よい絵本」

外国の絵本 幼児（3歳～就学前まで）

| 絵本名 | 作 者 名 | 出 版 社 名 | 出版年 |
|------------------------|--|---------|-------|
| 雨、あめ | ピーター・スピアー 作 | 評論社 | 2007年 |
| あらまっ！ | ケイア・ラム 文 エイドリアン・ジョンソン 絵 石津ちひろ 訳 | 小学館 | 2018年 |
| おばけのバーバパパ | アネット＝チゾンとタラス＝テイラー さく やましたはるお やく | 偕成社 | 1998年 |
| ガンピーさんのふなあそび | ジョン・バーニンガム さく みつよしなつや やく | ほるぷ出版 | 1990年 |
| きょうはみんなでクマがりだ | マイケル・ローゼン 再話 ヘレン・オクセンバリー 絵 山口文生 訳 | 評論社 | 2006年 |
| 三びきのやぎのがらがらどん：ノルウェーの昔話 | マーシャ・ブラウン え せたていじ やく | 福音館書店 | 2001年 |
| しずかなおはなし | サムイル・マルシャーク ぶん ウラジミール・レーベデフ え うちだりさこ やく | 福音館書店 | 2001年 |
| だめよ、デイビッド！ | デイビッド・シャノン さく 小川仁央 やく | 評論社 | 2011年 |
| ティッチ | パット・ハッチンス さく・え いしいももこ やく | 福音館書店 | 1990年 |
| てぶくろ：ウクライナ民話 | エウゲーニー・M・ラチョフ え うちだりさこ やく | 福音館書店 | 2003年 |
| どろんこおた | アーノルド・ローベル 作 岸田衿子 訳 | 文化出版局 | 1998年 |
| どろんこハリー | ジーン・ジオン ぶん マーガレット・ブロイ・グレーム え わたなべしげお やく | 福音館書店 | 1998年 |
| ねこ ねこ ねこ | ブルノー＝ホルスト＝ブル ぶん ヤヌシ＝グラビアンスキー え まえかわやすお 訳 | 偕成社 | 2017年 |
| はなをくんくん | ルース・クラウス ぶん マーク・シーモント え きじまはじめ やく | 福音館書店 | 1997年 |
| はらぺこあおむし | エリック＝カール さく もりひさし やく | 偕成社 | 2008年 |
| ひとまねこざる | H. A. レイ 文、絵 光吉夏弥 訳 | 岩波書店 | 2000年 |
| ピーターのくちぶえ | エズラ＝ジャック＝キーツ さく きじまはじめ やく | 偕成社 | 1997年 |
| まっくろネリノ | ヘルガー＝ガルラー さく やがわすみこ やく | 偕成社 | 1987年 |
| まって | アントワネット・ポーティス 作 椎名かおる 訳 | あすなろ書房 | 2020年 |
| もりのなか | マリー・ホール・エッツ ぶん/え まさきりこ 訳 | 福音館書店 | 1999年 |

- 8) 分析対象の中の反復構造が見られる日本の絵本についての詳細は、鯨坂はるよ (2020)『大阪千代田短期大学』49号又は表1参照。
- 9) 鯨坂はるよ (2020)「絵本における繰り返し構造と結末の分析」『大阪千代田短期大学』第49号参照。
- 10) 表1参照。
- 11) 瀧薫 (2018)「発達の道すじと絵本の例」『保育と絵本 発達の道すじにそった絵本の選び方』エイデル研究所

<引用文献>

- 秋場美智子 (1982)「就学前教育における教材の研究—絵本の構造分析—」『幼児教育』p52-60
- 井倉美江、青木徳子 (1988)「空想物語絵本の表現と構造」早川勝広『表現学体系』冬至書房、p116, p118, p120
- 伊藤篤 (2018)『子育て支援』ミネルヴァ書房、p10-11
- 岩田紘佳 (2003)「絵本における繰り返し構造の分析」『日本保育学会大会発表論文集』第56号
- 瀧薫 (2018)『保育と絵本 発達の道すじにそった絵本の選び方』エイデル研究所、p87, p91, p94
- 野家啓一 (2020)『物語の哲学』岩波書店、p273
- 全国学校図書館協議会選定「第28回 よい絵本」(www.j-sla.or.jp, 2020.9.30 検索)
- 机 (2018)「第10章 絵本にはどのようなものがあるか」赤羽根有里子、鈴木穂波『保育内容 ことば 第3版』みらい、p142
- 本郷一夫 (2017)『発達心理学』建帛社、p116
- 正置知子・大阪保育研究所 (2016)『保育のなかの絵本』かもがわ出版、p22
- マーシャ・ブラウン (1995) 上條由美子訳『絵本を語る』ブック・グローブ社、p20
- ワロン (1983) 浜田寿美男訳『身体・自我・社会 子どものうけとる世界と子どもの働きかける世界』ミネルヴァ書房、p157, p164

<参考文献>

- 木下順二 (文) 清水崑 (絵) (1973)『かにむかし』岩波書店
- クレール・H・ビショップ (ぶん) クルト・ヴィーゼ (え) かわもと さぶろう (やく) (1998)『シナの五にんきょうだい』瑞雲舎
- バージニア・リー・バートン (ぶん/え) むらおかはなこ (やく) (1997)『いたずらきかんしゃ ちゅう ちゅう』福音館書店
- 松野正子 (さく) 瀬川康男 (え) (2004)『ふしぎなたけのこ』福音館書店
- 渡辺茂男 (作) 山本忠敬 (絵) (1966)『とらっく とらっく とらっく』福音館書店